



Marine
Stewardship
Council



MSCサステナブルなマグロ・カツオ類年報

市場データ、イノベーション、および海を守るパートナーの声

目次

マグロ・カツオ類の1年：世界の動向	3
MSC認証取得漁業によるマグロ・カツオ類漁獲量の増加	5
勢いのある市場：世界のマグロ・カツオ類の市場と魚種分析	6
持続可能な目標：2030年への道筋	9
認証取得に関する事例：かつお一本釣漁業株式会社	11
漁業の改善事例：株式会社白福本店のタイセイヨウクロマグロはえ縄漁業	13
持続可能なマグロ・カツオ類に関わる方々の声	14

Getty Images



マグロ・カツオ類の1年

- MSC認証取得漁業によるマグロ・カツオ類の漁獲量は160万トン
- 20万トン以上のMSCラベル付きマグロ・カツオ類製品
- 182のMSCプログラム参加漁業が世界のマグロ・カツオ類の53%を漁獲



持続可能なマグロ・カツオ類：世界の動向

現在、世界では持続可能なマグロ・カツオ類漁業への転換が起きています。これは消費者の需要に市場が対応して起きていることです。

この目覚ましい成長は最新の数字にも表れています。MSCラベルの付いたマグロ・カツオ類製品は世界で20万トンを超え、そのうち冷凍品は50%もの増加を示しました。また、MSCプログラムに参加している182の漁業が世界のマグロ・カツオ類の53%を漁獲しています。

より多くの水産品メーカーや小売業者が持続可能なマグロ・カツオ類の調達や販売に取り組むようになったことで、MSCラベル付きマグロ・カツオ類製品の販売量は、過去5年間で約3倍に増加しました。MSCの多くのパートナーがこの成長の最前線に立ってきました。Aldiはイギリスとアメリカで2桁成長を遂げ、Rio Mareはヨーロッパ最大のMSCラベル付きマグロ・カツオ類製品のブランドとしての主導的な地位を固め、エクアドルのMSCラベル付きマグロ・カツオ類製品の生産量はほぼ倍増しました。

漁業においても様々な動きがありました。カナダでは、今年、キハダマグロ、ビンナガマグロ漁業による初の認証取得を含め、すでに5つの漁業が認証を取得しました。モルディブの一本釣り漁業は初回の認証取得後、2度認証を更新しました。このほかにも、ステークホルダーによる多大な努力の成果がありました。認証を取得したカツオ漁業は4つの海域すべてに広がり、韓国のほぼすべてのマグロ・カツオ類はえ縄漁業がMSCプログラムに参加しています。また、タイセイヨウクロマグロ資源のために設定された最高水準の漁獲制御ルールによって、この資源が持続可能なレベルを下回ることがあっても、確実に資源を回復することができるようになりました。

この年報には、変化をもたらすために協力し合う人々のストーリーや重要な事柄を掲載しています。ぜひ今、この世界的な動きに参加してください。



MSC認証取得漁業による マグロ・カツオ類漁獲量の増加

33%

世界のマグロ・カツオ類の
漁獲量のうち、MSC認証取得
漁業による漁獲量

20%

世界のマグロ・カツオ類の
漁獲量のうち、MSC認証審査中の
漁業による漁獲量

25%

世界のマグロ・カツオ類の
漁獲量のうち、漁業改善プロジェクト
(FIP、ベーシックまたは包括的)に
参加している漁業による漁獲量

22%

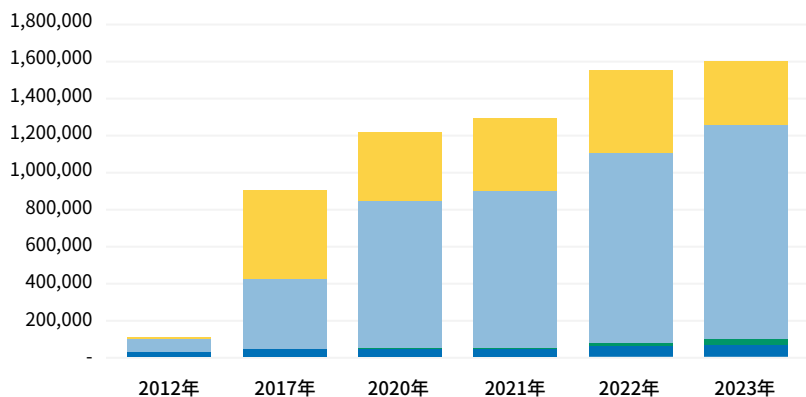
世界のマグロ・カツオ類の
漁獲量のうち、MSC認証取得漁業、
認証審査中漁業、FIP漁業のいずれにも
該当しない漁業による漁獲量

MSC認証漁業への移行プログラム参加漁業
および一時停止中の漁業による漁獲量を除く

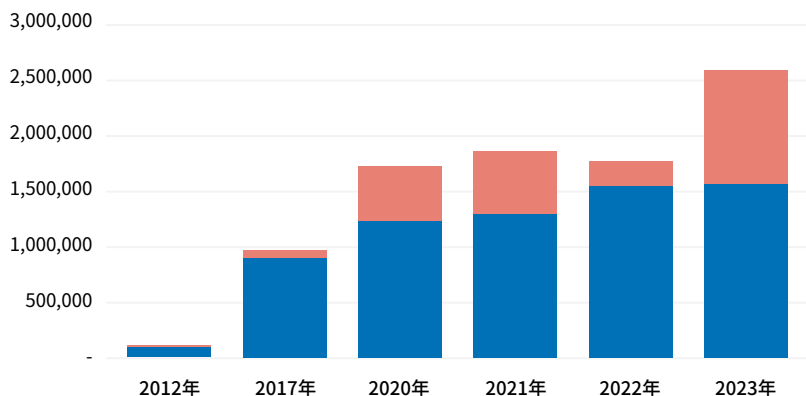
「市場は、持続可能な
漁業の実現にあたって、
重要な役割を果たして
います」

ドイツ Globus 魚介類部門マネージャー
ユルゲン・パウリー氏

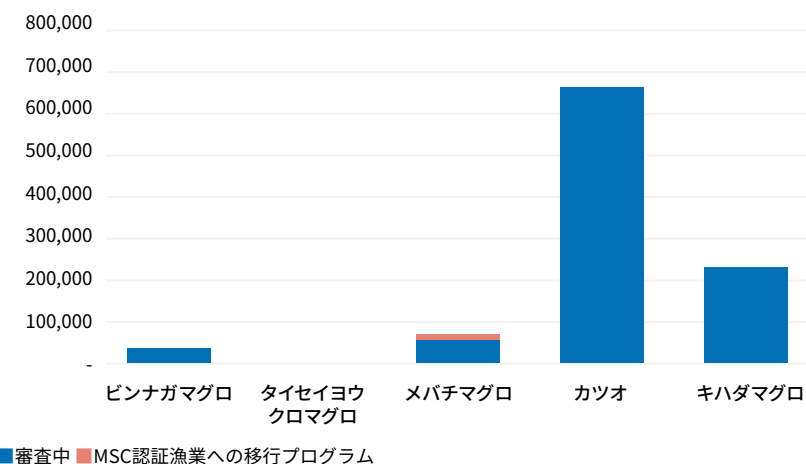
MSC認証取得漁業によるマグロ・カツオ類漁獲量 (トン)



MSCプログラムに参加している漁業によるマグロ・カツオ類漁獲量 (トン)

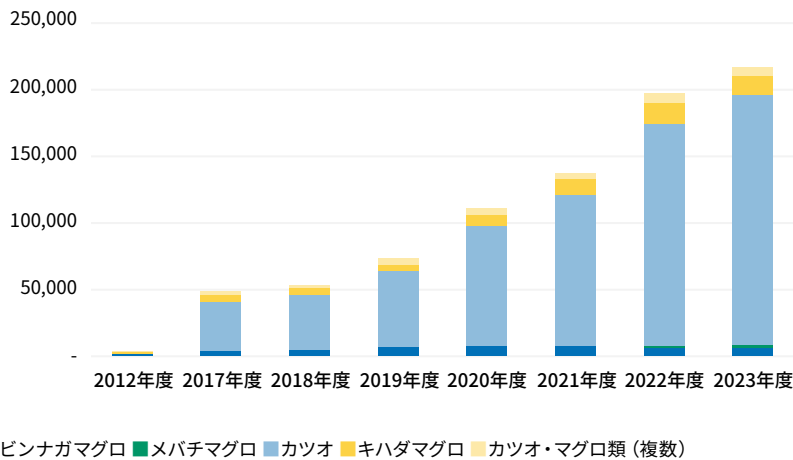


MSC認証取得を目指す漁業によるマグロ・カツオ類漁獲量 (2023年末現在) (トン)



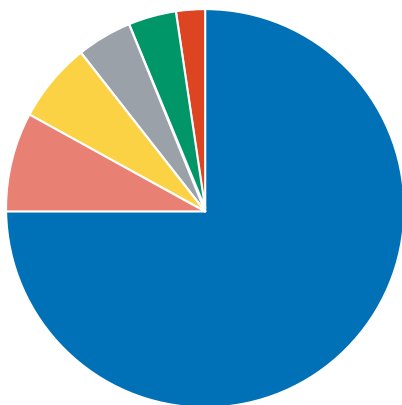
勢いのある市場

MSCラベル付きマグロ・カツオ類の重量 魚種別 (トン)



国名	マグロ・カツオ類重量 (トン、2022年度)
ドイツ	39,769
アメリカ	34,008
イギリス	15,316
イタリア	13,590
フランス	12,327
オーストラリア	11,974
<複数国>	10,655
オランダ	8,941
カナダ	8,205
スイス	8,020

MSCラベル付きマグロ・カツオ類 製品形態別、2023年度*



*2023年4月~2024年4月の予測値

■ 缶詰 ■ 調理加工済み食品 ■ 持ち帰り用製品 ■ 冷凍品 ■ 冷蔵品 ■ ペットフード

「私たちの優先事項は、持続可能な食品を手頃な価格で提供することです」

Lidlスペイン CSR責任者
ミカエラ・ライシュル氏

世界のマグロ・カツオ類の市場と魚種分析

254

MSCラベル付きカツオ製品を販売する水産品メーカーの数
2015年の49社から増加

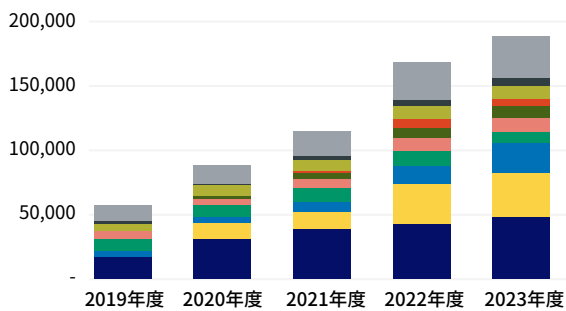
125

MSCラベル付きキハダマグロ製品を販売する水産品メーカーの数
2015年の1社から増加

130

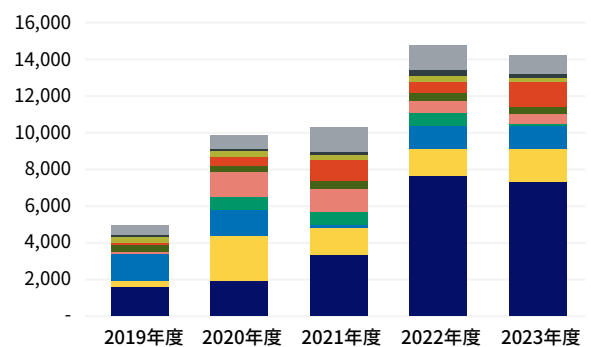
MSCラベル付きビンナガマグロ製品を販売する水産品メーカーの数
2015年の76社から増加

MSCラベル付きカツオ製品 (トン)



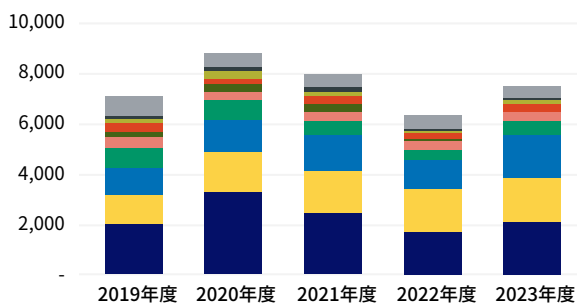
■ドイツ ■アメリカ ■イギリス ■オーストラリア
■オランダ ■フランス ■カナダ ■スイス ■イタリア
■その他

MSCラベル付きキハダマグロ製品 (トン)



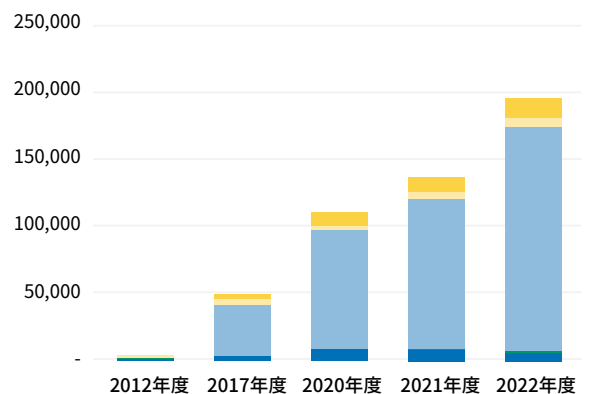
■イタリア ■フランス ■アメリカ ■日本 ■スペイン ■ドイツ
■ベルギー ■オーストラリア ■スイス ■その他

MSCラベル付きビンナガマグロ製品 (トン)



■アメリカ ■フランス ■スペイン ■スイス ■カナダ
■ベルギー ■イギリス ■オランダ ■ドイツ
■その他

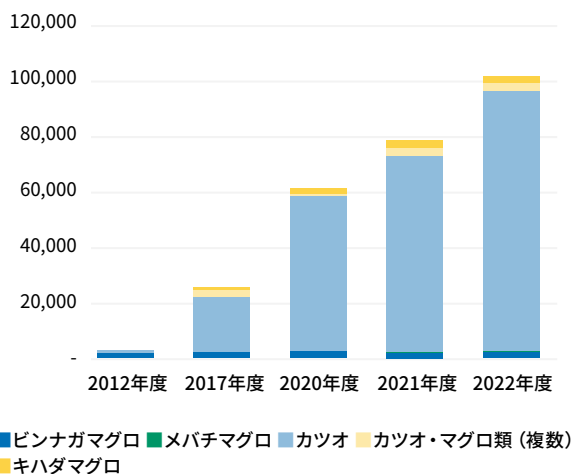
世界のMSCラベル付き製品の重量 (トン)



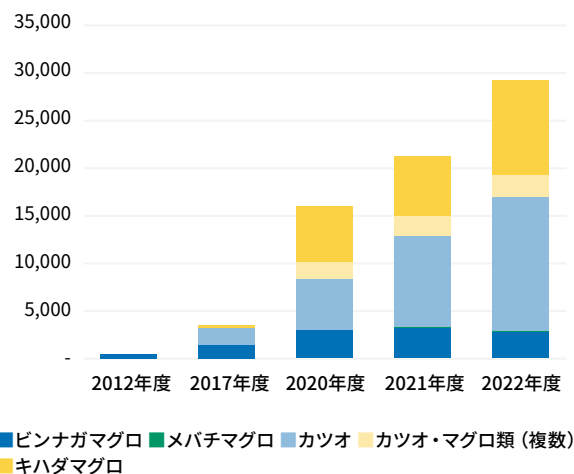
■ビンナガマグロ ■メバチマグロ ■カツオ ■カツオ・マグロ類 (複数)
■キハダマグロ

世界のマグロ・カツオ類製品の分布域の分析

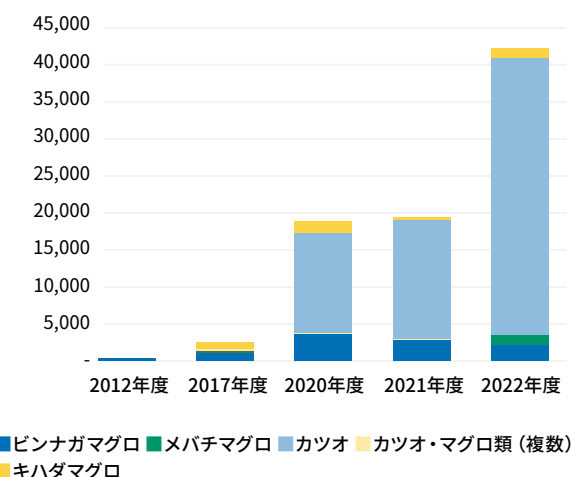
北欧、中欧のMSCラベル付き製品の重量(トン)



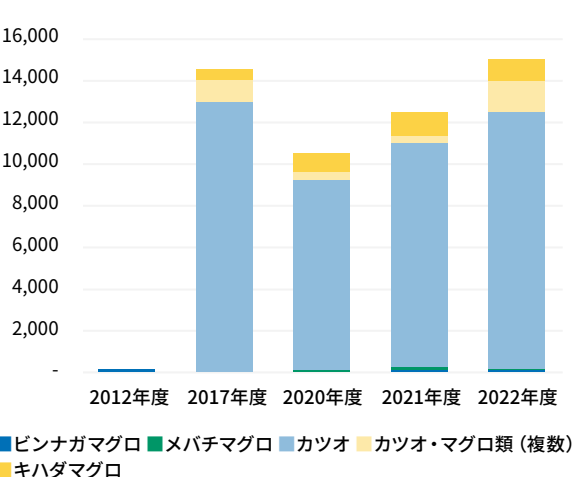
南欧、アフリカ、中東、南アジアのMSCラベル付き製品の重量(トン)



南北アメリカのMSCラベル付き製品の重量(トン)



アジア太平洋地域のMSCラベル付き製品の重量(トン)



2030年への道筋

健全でバランスのとれた海の世界食物連鎖を維持するうえで、マグロ・カツオ類は非常に大きな役割を果たしています。このため、2030年までに世界の天然水産物の漁獲量の3分の1以上をMSCプログラム参加漁業によるものにするというMSCの目標にとっても、マグロ・カツオ類はとても重要なものです。

この目標は非常に野心的なものとはいえ、実現させなければならぬ目標です。目標の達成によって、世界の食料安全保障に貢献し、マグロ・カツオ類漁業に生計を依存する将来の世代を支えることができます。また、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の目標14「海の豊かさを守ろう」の達成にも大きく貢献することになります。地球上で最も広く漁獲されている魚類のひとつであるマグロ・カツオ類は、この目標を構成する主な要素となっています。

マグロ・カツオ類は2030年に向けた目標の達成に関して主導的な役割を果たしており、白身魚と小型浮魚類を除いたほとんどの認証魚種をしのいでいます。商業的に重要な世界のマグロ・カツオ類の水揚げ量の半分以上がMSC認証取得漁業、もしくは認証審査中漁業（持続可能性を実証するプロセスにある漁業）によるものです。2030年までに、世界のマグロ・カツオ類漁業の3分の2以上がMSCプログラム参加漁業となり、50万トンのMSCラベル付き製品が店頭に並ぶことになるでしょう。

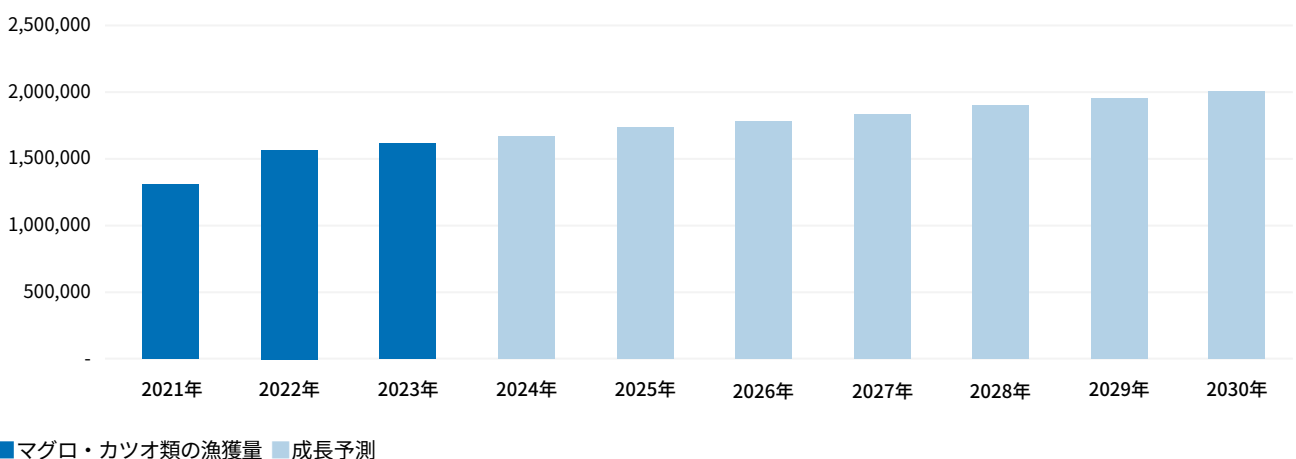
MSCの計画には、これから2030年までにかけてのMSCの展望と優先事項、そして過剰漁獲を終わらせる取り組みを前進させるためにパートナーとどのように協力していくのかが含まれています。この計画では、MSCの取り組みが大きな効果をもたらすであろう漁業、魚種、市場に焦点を絞っています。MSCプログラムに参加する138のマグロ・カツオ類漁業、5つの主要魚種、巨大な世界市場を持つマグロ・カツオ類は、大変重要な役割を果たすことになるでしょう。

課題の克服

持続可能性に向けた道筋に課題がないわけではありません。MSC漁業認証規格の改定版は、マグロ・カツオ類漁業が直面する問題への対処が含まれており、持続可能性のリーダーとしてのMSC認証取得漁業のゆるぎない地位を確立するものです。改定版の規格では、認証取得漁業で「シャークフィニング（サメのヒレを取り、残りの部位を海に廃棄する行為）」が行われていないことの確実性を高め、絶滅危惧種・保護種（ETP種）の保護を強化し、FADs（集魚装置）の及ぼす影響をさらに適切に管理することが求められます。

マグロ・カツオ類は海を何千キロも移動するため、漁獲戦略に関する合意は複雑になります。多くの国々による合意が必要となり、それらの国においては、国内漁業の優先順位と漁獲戦略

2030年の目標達成に向けたMSC認証のマグロ・カツオ類漁獲量の増加予測（トン）





「マグロ・カツオ類は回遊魚であるため、主な課題は国際的な規模で優れたガバナンスを推進することです」

大型冷凍マグロ船生産者団体（OPAGAC）
マネージングディレクター
フリオ・モロン氏

53%

世界のマグロ・カツオ類総漁獲量のうち、
MSCプログラム参加漁業による漁獲量の割合

33%

世界で漁獲されるマグロ・カツオ類のうち、
MSC認証取得漁業による漁獲量の割合

138

MSCプログラムに参加している
マグロ・カツオ類漁業の数

の共有をうまく調整しなければなりません。さまざまな利害の発生により、合意に達成することが困難になることもあります。しかし、漁業が認証の規格を満たし続けるには、持続可能であるとされる結論に合意しなければなりません。

これは、中西部太平洋（WCPO）の水産資源について実際に起きていることであり、大きな課題であることに変わりはありませんが、WCPOにおいてMSC漁業認証の維持に向けての期限内に、カツオの漁獲戦略が実現できそうであるという明るい兆しも見えています。

長年にわたる共同での努力の末に、この慎重な楽観論に至ることができたのは、影響力のある多くの漁業、小売企業、環境保護団体が、MSC認証を通じてマグロ・カツオ類漁業の持続可能性が実証されていることを支持している証です。

協力して取り組む

マグロ・カツオ類漁業は、その漁業慣行において大幅な改善を成し遂げ、世界で漁獲されるマグロ・カツオ類の53%がMSCプログラム参加漁業によるものです。MSCプログラムは市場が主

導する形のものであることから、2030年の目標を達成するためには、MSC認証水産物を選択するパートナーや消費者による支援が不可欠です。

消費者は、自身の選択が海に与える影響について、これまで以上に意識するようになってきました。2022年にMSCがグローバルスキャン（GlobeScan）に依頼して行った調査では、73%もの消費者が持続可能な供給源からの水産物を食べるべきだと考えています。MSCのミッションは、水産物の消費と持続可能な製品に対する消費者の需要を活性化し、市場原理のみならずポジティブな影響力を利用することで、さらなる参画を促すものです。

世界の水揚げ量の3分の1以上をMSCプログラム参加漁業によるものにするという2030年に向けた目標を達成するために、MSCに携わるサプライチェーンのすべての人々が重要な役割を果たしています。

大切なパートナーとともに、新たな市場機会を見出し、次の10年間の課題に取り組んでいくことをMSCは楽しみにしています。

認証取得に関する事例

漁業： かつお一本釣漁業株式会社 カツオ・ビンナガマグロ
一本釣り漁業

漁具： 一本釣り漁業

漁獲量： 7,692トン

認証取得時期： 2023年4月

用語

漁獲戦略： 漁獲制御ルール、資源評価、モニタリングを用いた管理行動を組み合わせたもの。

漁獲制御ルール： 資源状態の変化に応じて漁獲量を調整することを義務付ける措置。

一本釣り： 釣竿に短い釣り糸とバーブレスフックを付け、マグロ・カツオ類（またはその他の大型魚）を一匹ずつ釣り上げる漁法。

中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）： 中西部太平洋全域のマグロ・カツオ類資源の管理を担当する地域漁業管理機関。

2023年度だけで150万トンを超えるMSC認証のマグロ・カツオ類が水揚げされ、審査中の漁業ではさらに100万トン近くが水揚げされるなど、MSC認証マグロ・カツオ類の漁獲量は年々増加しています。

2023年度には新たに4つのマグロ・カツオ類漁業がMSC漁業認証を取得しました。そのうちの1つは、日本のかつお一本釣漁業株式会社のカツオ・ビンナガマグロ一本釣り漁業で、中西部太平洋のカツオと北太平洋のビンナガマグロを漁獲しています。

第三者審査機関は、この漁業のガバナンスと管理システムがよく整備されていると判断しました。また、漁獲対象ではない魚種や生息域、生態系への影響が少ないことを示すデータも提出されました。

カツオとビンナガマグロの資源は健全なレベルにあるものの、長期的な持続可能性を守るために漁業には改善が求められ、認証取得時に3つの条件が付与されました。





条件の1つは、より効果的な漁獲戦略の策定に関するものです。こうした戦略は、資源を長期にわたって適切に管理し、個体群の変化に漁業が対応できるようにするために欠かせません。効果的な戦略には、より強い漁獲制御ルールが必要になります。これは、資源が減少し始め、あらかじめ決められた閾値に近づいた場合に、漁獲量を確実に減らすようにするものです。

漁獲戦略や漁獲制御ルールを実施することは、特に複数の国によって資源が共有されている場合、すべての関係国がそうした管理措置について合意する必要があるため、より困難になります。

中西部太平洋（WCPO）におけるカツオの効果的な漁獲戦略の策定と実施は、進捗が遅れていました。このカツオ資源は、26カ国・地域が加盟する地域漁業管理機関（RFMO）である中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）によって管理されています。

かつお一本釣漁業株式会社の漁業を含むWCPOのマグロ・カツオ類漁業は、WCPFCが漁獲戦略と漁獲制御ルールの実施に向けて取り組んでいることを前提に、MSC漁業認証の最低限の要件を満たしているとして認証されました。

2023年5月に発効となったMSC漁業認証規格の改定版には、RFMOが管理する漁業について、より包括的で強固な資源全体の漁獲戦略を策定し、採択するには、より長い時間が必要となることを認識した新たな要求事項が組み込まれています。こうした漁業は、審査において「最高水準」の得点（可能な限り最大）を達成し、その漁獲戦略によって資源を目標レベルに確実に維持できるということが検証されなければなりません。

WCPFCは、カツオ資源の漁獲戦略の策定に向けて歩みを進め、MSC漁業認証規格が求めるマイルストーンの多くを達成しました。これには、2022年の12月に達成された、カツオの漁獲戦略の採択についての合意も含まれます。

WCPFCは、2025年5月までに、漁獲戦略が効果的なものであり、資源を持続可能なレベルに維持できることを証明する証拠を提出しなければなりません。カツオ資源を目標レベルで維持することが明記された改定措置を採択したことによって、これに向けた進展が見られました。この措置には、まき網漁業に許可される操業日数の制限や、カツオ資源を対象とするすべての漁業に漁獲量の制限を設けることが含まれています。

これらの措置は、WCPOのカツオ漁業が、漁獲戦略に関して付与された条件を満たすことにつながるものです。

漁業の改善に関する事例

漁業：株式会社白福本店 タイセイヨウクロマグロはえ縄漁業

漁具：はえ縄

漁獲量：71トン（2023年）

認証取得時期：2020年8月

用語

漁獲戦略：持続可能なレベルで資源を維持するための鍵となるもの。モニタリング、資源評価、漁獲制御ルールなどの漁業による管理行動の組み合わせ。

大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）：大西洋のマグロ・カツオ類の管理を担う地域漁業管理機関。

クロマグロでMSC漁業認証を世界で初めて取得した日本の漁業は、かつて過剰漁獲されていたこの資源の持続可能性を長期にわたって確かなものとするために、さらなる措置を講じました。

白福本店は2020年にMSC漁業認証を取得しました。しかし、認証には条件が付けられ、特定の漁業活動について世界の最優良事例レベルに近づけるための改善が求められました。これには、過剰漁獲防止のための予防措置が行われていることの実証、海域内のその他のマグロ・カツオ類資源の管理を支援するためのデータ収集などが含まれました。

この漁業による認証取得は、タイセイヨウクロマグロの状況が大きく好転したことを意味しています。1990年代に行われて

いた過剰漁獲は、東部大西洋と地中海のクロマグロに深刻な脅威を与え、2006年には資源が崩壊寸前の状況にまで追い込まれました。2007年にICCATによって資源回復計画が導入され、漁獲量と漁期の制限が設けられました。この計画によって、クロマグロの個体群は順調に回復し、2017年、ICCATはこの資源は過剰漁獲の状態にはないと判断しました。

白福本店は、タイセイヨウクロマグロの個体数が減少に転じた場合に、漁獲量を削減するための予防的管理措置（漁獲制御ルール）が設けられていることを実証しました。ICCATもまた、無報告の漁獲や不正確なデータなど、不確実な領域を特定し、それを解決するためのさまざまな管理戦略をテストしました。その結果、この条件は2023年に達成されました。

2つ目の条件については、東部大西洋のクロマグロ資源が西部大西洋のクロマグロ資源とどのように混ざり合っているかを理解するために実施された調査を踏まえ達成されました。独立した観測プログラムを通じて、この漁業で組織サンプルを収集し、分析することによってクロマグロの由来を特定しました。この調査から得られた知見によって、資源の個体群の算出方法が改善され、ICCATは正確な漁獲制限を設定できるようになり、漁業は西大西洋のクロマグロとの相互作用を管理するための最良の戦略を策定できるようになります。

こうした改善により、クロマグロ資源は過剰漁獲されることがなくなり、漁業は、絶滅危惧種や保護種との遭遇に関するより包括的な航海日誌の記録の収集など、引き続きほかの条件を満たすための取り組みを続けています。



持続可能なマグロ・カツオ類に関わる方々の声

MSCのパートナーの皆さまからの声を紹介します。

皆さまの声は、MSCにとっての優先事項を再確認し、過剰漁獲の根絶と将来に向けた食料安全保障というMSCのミッション達成に向けての励みになります。

「世の中の傾向は、はっきりしています。
サステナビリティは私たちのブランド価値
や製品のクオリティにとって欠かせない要
素です」

イタリア、Bolton Food & Tri Marine
チーフ・サステナビリティ・オフィサー
ルチャーノ・ピロヴァーノ氏

「持続可能な会社を目指さないという選択
肢はありません。私たちは事業を長期にわ
たって存続させたいのです」

スペイン、家族経営の漁業会社Echebastar
CEO ケパ・エチェバリア氏

「MSC認証は持続可能な漁業に関する最高
の規格であり、消費者にとってはFishwife
社の調達方針が信頼できるものであるとい
う証になります」

Fishwife Tinned Seafood Co.
共同創立者・CEO ベッカ・ミルスタイン氏

「弊社はツナ缶詰・パウチを日本全国に広
く販売しております。MSC認証製品を販売
することで、持続可能な資源利用に取り組
むとともに、日本の消費者の環境意識がさ
らに高まることを願っています」

はごろもフーズ株式会社
取締役 シーチキン・デザート・総菜ユニット
ユニット長 鈴木孝夫氏

「マグロ・カツオ類は広大な海を回遊する
ので、この水産資源が私たちのものである
と主張することはできません。漁獲を行う
全員が合意しないと、マグロ・カツオ類資
源を持続可能にするのは難しくなります」

モルディブ、マグロ・カツオ類加工業者Horizon
前マネージングディレクター アドナン・アリ氏

「私どもはこれからも資源管理をしっかり
と行って、持続可能な、環境に配慮した漁
業を継続していき、そして消費者の皆様には
水産資源への関心とご理解を深めていけ
ればと考えています」

共和水産株式会社、東海漁業株式会社
代表取締役 社長執行役員 橋津寛氏

「多くの人がサステナブル・シーフードを
選べば、多くの製品が市場に並ぶようにな
ります。これは、私たちは海を愛し、守り
たいというメッセージをサプライチェーン
に送る手段です」

イタリア、シェフレット・パロンバ氏

「ヤマキは、CSVの目標を『体の健康』
『地球の健康』 『心の健康』 の3つと定め
ており、『地球の健康』の取り組みとして
海の豊かさを守りそれを未来に繋いでいく
ことは、当社としての社会的責任だと考え
ています」

ヤマキ株式会社
取締役 経営企画部長 高橋宏維氏



Marine
Stewardship
Council



ニュースレターの
お申込みはこちら



@MSC_Japan



/MSCJapan



/mscJapan

画像の著作権は特に明記されていない限り、MSCが有しています。
Registered Charity number: 1066806. Registered Company number: 3322023.
© Marine Stewardship Council 2024